

我愛台中

—台中で過ごした日々—

上前昌子

はじめに

最近とても台中を恋しく想う日々です。現在は、日本の神戸に住んでいますが、2012年から5年半を台中で過ごしました。2011年の東日本大震災の時に福島県に住んでいた私はこども2人と3人で放射能被曝から逃れるために台中に住み始めたのです。

旅行などで来たこともなく中国語も「你好、謝謝、好吃」の3つしか話せないのに住み始めた台中生活。日本から飛び出しての台中生活は毎日刺激的で沢山の不思議や新しい事との出会いに私たちはワクワクして過ごすことが出来たと同時に、爆発した原発から離れて安心して暮らせた場所でした。

台中での生活を思い出しながらいくつか印象的な事を書き連ねようと思います。

歡迎光臨

台北ではなくなぜ台中を選んだのか？という理由は、ごちゃごちゃ都会過ぎない、そしてなにより家賃が台北より断然安いというのが1番の理由だ。事前にネットで家探しをしてから現地で日本語のできる不動産屋に案内してもらいほぼ即決め。今思えばすごい速さの決断力だったな私。と過去の自分に惚れ惚れするくらい。

入居する日にマンションの管理人さんたちが、まったく中国語ができなさそうな私と娘、息子を見て心配だったのかとても親切に接してくれありがたかった。

「ところで台湾に来た理由は？」という質問を管理人さんたちに聞かれた。身振り手振り、「福島、バーン」と原発が爆発したから逃げてきたということを伝えると、「よく逃げてきた歡迎光臨」「勇敢だ」と褒められてちょっとびっくりした。日本では避難した先でいじめられたりして避難者の子ども

が学校に行けなくなったりしていた話も聞いていた中、私たち親子は「よく来た、よく逃げてきた」と褒められたのだから、衝撃的であった。まさかそんな風に言われるとは思ってもしなかったのだが、台湾台中生活の最初はそんな温かい雰囲気でした。私たちは安心感に包まれたのだった。

外帯可以嗎？

中文が出来ないまま始まった台湾生活だったが、そもそもがなんとかなるだろう、という行き当たりばったりの性格が功を奏したのかどうなのかは謎だけれども、どんどん外に出ているいろいろ体験した。

最初は調理道具なども揃ってなかった為に、家で食事を作るのもすぐには出来ない。

とにかく外食。「外食文化ばんざーい！！」と思いながら、注文する時は指さして注文したり、私の前で注文している人をじーっと見て聞き耳を立て、なるほどそう言えばいいのね、と観察。そして、一番初めに覚えたのが、「外帯可以嗎？」だった。

外帯しまくり、料理から、飲料から注文するのは得意になった。

電話で飲料を外送してもらうのにも挑戦。発音悪いから相手は大変だったろうなと今更ながら思うのだが、ちゃんと家に飲料が届いた時にはこどもと一緒に大喜びだった。

外帯、外送に非常感謝。

你買了什麼東西？

朝食は日本では、米と味噌汁と納豆とかよくあるパターンだと思うが我が家の朝はパンとコーヒーというのが通常であった。だから、前日に明日の朝のパンを買うのが日常だった為、台湾生活でも朝食はいつものパターンでパンを買いにいくのが普通になっていた。

マンションの管理人さんたちが、日々私たち家族を気にかけて話しかけてくれていたのだが、毎日買い物から戻ってくると「你買了什麼東西？」と必ず聞かれる。「麵包」と答えると「為什麼？」「明天的早餐」「為什麼現在要買明天的早餐？？」とめちゃくちゃ不思議がられた。が、なぜそんなに不思議がるの？とそれが不思議な私。なんだか噛み合わない会話を繰り返す。

明日の朝食べるものは明日の朝買えばいいのに、明日食べたいものは今日とは違うだろ。などという理由のようで、笑ってしまった。と同時になるほどねー。となったのだ。

住んでみないとわからないこういう細かい文化の違いとでもいうべきか、そんなことを感じるたび

に興味深くなると面白いのだ、とワクワクした。

なによりも毎日こう言って話しかけてくれる管理人さんたちのおかげで中文の聞き取りのチカラはあがったし、下手でも話そうとするのでいろいろ中文の単語も覚える事ができた。日常のコミュニケーションがある生活はとても楽しくありがたかった。

台湾的巴士很有趣

台湾のバスは面白かった。日本とはいろいろ違いがあり個性的である。

手をあげないと止まってくれない。というのを多分日本の人は最初戸惑うかもしれない、控えめに手をあげていると止まらず通り過ぎられてしまうので身を乗り出すようにして手をあげてアピールするようになった。当時 GPS で今このバス停通過というのがわかったのもそれを見てバス停まで歩いていると、急にバスが速度をあげたのかガンガン進むのが早くなり間に合わなくなったこともある。

ひどいときは前を走っているバスに追いついて2台一緒にバス停にいたり、追い越したりしたときもあった。

ある日のエピソードを書いておこう。

新光三越前からバス、日曜日は混んでいる。中の方に入れずすぐ運転士さんの横。気まずいくらいすぐ隣だ。満員のバス。台湾の若手歌手のバラードがかかりだす。あ、この曲よく耳にするなあ、と私が思うくらいだから、有名な曲かな。しばらくしたら微妙にハモリだし、そのうち熱唱しだした。歌っているのは、隣の運転士さん、かなり気持ち良さそうだ。あかん、笑える。

しかし満員のバスの客。動揺はみられない。すごいぞ台湾人。

笑えるのを堪えて鼻がびくびくしていたに違いない私。ごつごつしたちよっと強面の運転士さんやけどこれがなかなか、ええ声やし、うまいやんなどと感心しているうちに目的のバス停に。降りる時に「謝謝」というと、ええ声で「謝謝～小心～」と言われた。しばらくそのあとは何とも言えない幸せな気分になった1日であった。

為什麼？ ？ ？

生活しているといろいろ不思議だな、とかなぜ？ どういうこと？ という事があった。

おそらく台中に暮らしている人はそれが当たり前になっているだろうから私が不思議に思う事が、なんで不思議なの？と思うかもしれない。こどもたちと家でそんなことをよく話しては笑った。

いくつかあった為什麼？の一つがバイクに乗っている人がジャンパーとか上着を逆向きに来ている事だった。前で閉めるはずのファスナーが後ろにある。その格好でコンビニやお店で買い物している人を見かけるたびに？？？が私たち親子の顔から飛び出していたはずだ。

私が中文を教えてもらっていた学生さんもバイクで逆向きにジャンパーを着ていたの、尋ねてみた。その学生さんは、ちょっとびっくりして「何が不思議なの？」と「日本ではこうやって着ないのか？」と聞いてきた。「前向きに着るより早いだろう」と当たり前かのように言い放った。

「早い？」確かに逆向きに着れば袖を通すだけだから背中では閉まってないし早いかもしれないけど、早さは重要なのか？でも早いからだと思っ満々に話す学生さんの言葉に、なるほどと答えて家に帰りこどもたちに話すと、「え？それが理由なの？早いかな？なんだそれー」と笑った。

そういった話で親子三人よくしゃべりよく笑った。思春期の娘と息子だったが、親子でよく会話して笑うネタが尽きなかった。

独立書店&珈琲店

日本の京都府の田舎でこどもの頃を過ごした私は、いろんな商店が少ない街で本屋さんに行くのが大好きだった。父親も書店好きで違う町に出かけてもちょっと都会に行っても必ず書店に行くのでもれなくこどもの私も書店でウロウロいろんな本を見て過ごすのが楽しかった。いつの間にか日本では、個人経営の書店が無くなっていき、チェーン店の大型書店か或いはネットで本を買うような状況になっていたのが台湾に来て、あちこちに個性的な老舗の趣味志向がつまった書店、いわゆる独立書店なるものが沢山ある事に驚き、なんだかワクワクした。

何より驚いたのは独立書店やカフェで原発事故の話や社会的な話の講座などをしている事だった。素敵すぎる。

私も福島原発爆発・避難・何が起きているのかという話をあちこちのカフェや書店、大学に呼んでもらい話をする機会をもらえた事も衝撃だった。カフェや書店でそんな話していいの？聞く人いるの？と思ったがこれが意外にも沢山の人が聞いてくれた。感謝感激。

日本ではカフェも個人経営は少なくなり大手チェーン店だらけで、個性がないしなんだか面白

みがないのだが、台中ではカフェも面白いくらい個性がありそれぞれのこだわりがあるのが素敵で魅力的だった。そんな中、原発事故の話をした時に聞きに来てくれていた東海大学の老師と知り合い成り行きで((笑)老師の運営しているNPOのブックカフェを作ることになった。

まさか台湾の台中でカフェの内装の壁塗りをすることになるとは、人生わからないものである。その後はオープンしたブックカフェでコーヒー豆を焙煎したりシフォンケーキを焼いたり、ランチをつくったりすることになってしまい一段とおもしろい日々を過ごすことになったのだった。

最後に・・・

原発で避難して落ち込んだりする人も多かった中、私とこども2人は毎日が刺激的だった。おかげでよく食べよく遊びよく笑う日々を送ることが出来たのは避難して住み始めたのが台中だったからだと思わずにはいられない。台湾台中には感謝感謝だ。春になったら久しぶりに訪れたい。待っていてね台中。

上前昌子(うえまえ まさこ)